

KSKS

CIL豊中通信
【アイエルちゃん新聞】

VOL. 66

2025年
7月号

猛暑の7月に発行ということで、今回の特集は一番解りやすい「海」としました。あ、海が嫌いな方、ごめんなさいね。でも今回の特集発信の狙いの一つは、「出来ない」と思い込んでいたことが出来たら、人はきっと変化するというのを感じて頂くことだと思っています。海は飽くまでも一例として受け止めて下さい。なお、今回は運営団体の取材のみですが、後日、取材担当者、実際に海水浴を体験する予定です。その報告は次号にて。乞うご期待♪。

♪それは、海、海、海♪

【須磨ユニバーサルビーチプロジェクト】

夏の特集は、海水浴です。皆さんの中で、今までに海水浴に行かれた事がある方はいますか？ちよっと、そのあなた、自分は車いすだから無理だよなど、頭からあきらめていませんか？そういう私も二足歩行ができていた若い頃は、行きたいと思えば、いとも簡単に行けていましたけど、完全なる車いす生活の今の私は、遠くの海をながめているだけでした。今の世の中、何もあきらめることはありません。私達

特集：さあ！さあ！夏です！みんなで一緒に楽しんじゃおうよー!!



だって海水浴を、友達や家族と一緒に楽しめませんよ。私は目から鱗でした。皆さんの中に、は、知っていらっしゃる方もおられるかもしれない

お二人の出会い、やがて大きい出会いの輪となつて、ユニバーサルビーチ！

いです。全国規模で海水浴場のユニバーサルデザインを目指して取り組んでおられる、「NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト」を、このたび取材させていただきました。対応して下さったのは、事務局長の土原翔吾さんと、代表理事の木戸俊介さんです。

編集人 NPO法人CIL豊中市 蛸池 中町2の3の1の203
E: [http://www.citoyonaka.com/](mailto:info@citoyonaka.com)
Twitter: @citoyonaka
Email: zitsu@citoyonaka.com
TEL 06 (6857) 3601
FAX 06 (6857) 3602
発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪府天王寺区真田山町2の2
東興ビル4階 定価100円

「みんなのできないをできた！に変える」を合言葉に、障害のある方

や、小さいお子さんから高齢者までみんなで楽しめるユニバーサルビーチを全国に普及させる活動をしていきます。立ちは2016年で、きっかけは木戸さん自身が交通事故に遭って、車いす生活になられたことでした。事故後、故郷である神戸に戻って「これから何をしようか？」というときに、リハビリのために訪れたオーストラリアで、ゴールドコーストという海岸の砂浜にビーチマットが敷かれてあり、その上を水陸両用車いすが行き来して、老若男女様々な人

たちが海を楽しむ光景を見て、「あー、これだ！これを日本でも是非やりたーい！まずは地元神戸の須磨海岸で始めてみよう」と思ったのだそう。

ちよと神戸の街も、大きく変わっていきこうとしていた時でした。木戸さんは、行政が主催した、「どういう神戸に変わった、という嬉しいか？」、市民の声やメッセージを聴くための会に参加したのですが、そこで土原さんと偶然出会いました。当時、学校教員だった土原さんはこの出会いを機に、「地域でこのような活動をしてもいいかな」と思うようになった。そして、木戸さんや、地元神戸にゆかりのある人たちが発起人となって団体を立ち上げ、そのタイミンで土原さんも関わるようになった。

最初は何もなかった！

普通の車いすに乗ったままビーチで動くことは不可能で、車いすで海に遊びに行きたいなんて思えないのが当たり前だから、最初はビーチに車いすの姿は、全く見られませんでした。団体にとっても、資金もないし、ビーチマットも水陸両用車いすもない、なにもないところからのスタートでした。障害者、海の家店主、ライフセーバー、行政マン、サラリーマン、看護師、デザイナー、記者など、立場の違う有志の仲間たちが、いろいろアイデアを持ち寄りました。とにかく何でもやってみよう、自分たちでビーチマットを作ってみては、その検証会をやっていたそうです。でも、そのどれも安全性に問題があり、断念。クラウドファンディングに挑戦し、お金を集めてアメリカ製のビーチマット(113万円)を購入



入りました。そして寄付金で水陸両用アウトドア車いすヒップキヤンブ(フランス製)を購入入、最初は、ご自身たちで更衣のためのテントを張ったり、漁師さんが、水を温めておけばシャワーになるというタシクを持ってきてくれたりして、何でも自前のものでされていたそうです。今は神戸市が仮設の建物を建ててくれているそうです。いろいろな人たちが無理なく助け合っているからこそ、ユニバーサルビーチは持続できるということです。

強みのビーチマツトをもつて、人と人との輪ができる！

今やひと夏に、障害者の方と一緒に、家族の方、ヘルパーさんなど付き添いの方も入ると、平均で年間450人、500人が須磨海岸に遊びに来るそうです。海岸に車いすがないなんて嘘みたい！みんなバリアがあったから来られなかっただけなのです。

ボランティアとしてかわる人も増えていきます。例えばビーチマツトは重くて手間がかかります、だからこそビーチに敷くには多くの人の力が必ず要です。非常にありがたいこと、ボランティアのひとりが知り合いや友達を連れてきてくれたり、一緒に手伝ったり、参加者と共に海にも入ってくれるそうです。運営する側

としては、人、コミュニティを大切に、「いかに楽しく過ごせるか」に注力しているということです。

このように、人が人を呼び、口コミやネットでの評判が広がり、この7、8年で200件の雑誌やテレビなどのマスコミ取材も来て、認知度はどんどん高まりました。人の輪が拡大していく一方で、海の環境保全と多様なダイバーシティを兼ね備え、地に足をつけて活動していることで、多くの地元企業や自治体からの応援・協賛を得ているそうです。

「海は初めて！」や「久しぶりなの！」や「人でも大丈夫！」

神戸市が夏の期間だけ建ててくれる更衣室は、仮設の建物ですが、バリアフリーで、多目的トイレや、赤ちゃんのおむつ交換のためのスペースやシャワーを完備されているそうです。飲食ス

イスも完全には言えないけどバリアフリーになっていると思います。海を楽しむことは海水浴だけではなく、砂浜を歩いて潮風を感じること、海の景色の中にかき氷を食べることも、また楽しみですからね。

安全なサポートで海を楽しむんでもらうために、事前に念入りにアンケートをとられているようです。身体のこと、障害のこと(例えばてんかん発作の有無、気管切開の有無、体感保持力や座位保持や意思疎通のための表現方法など)を、細かく本人(または家族)に聞いた上で、海に入ってもらうようにしています。いろいろなボランティアスタッフや作業療法士・理学療法士、その他いろいろなスペシャリティー(強み)をもつボランティアスタッフに協力してもらっています。即ち、アクションに挙げている「みんなで作るユニバーサ

ルビーチ」の「みんな」とは、大勢のひと、いろいろな個性やスペシャリティー、強みを持つていて、それぞれが関わることで、それぞれの強みをいかなる形で海を楽しんでもらいます。ただ、無理やり入れることはいいです。波打ち際まで行って帰ってくる人もいます。海水浴や夏の海に少しでも関心があれば、波打ち際で遊ぶのも、また楽しいかもしれないですね。

こんなエピソードを聞きました。一人のおじいさんが参加して、波打ち際までしか行かない予定だったのですが、みんなが入っているのを見たら、「ワシも入りたい！何で俺を入れてくれへんねん！」と怒り出したとか。みんなが楽しそうに



入っていたら、そういう気持ちにもなってくるのかもしれない。

駐車料金などの実費はもちろん別ですが、ユニバーサルビーチへの参加は無料です。

チャレンジと多様性を心がけたい！

一度体験してみないと、個人的には水に浮く車いすがあるなんて正直信じられないですけど、「水陸両用車いすヒップキヤンブ」という名の車いすは、海水浴だけではなく、木登りや

山登りをも可能にしてく
れるそうです。海から山
へ、アクティビティーの
範囲がどんどん広がって
きますね。乗馬の体験
コーナーもあるというこ
とで、去年は99歳のおば
あちゃんが、乗馬を体
験しました！

海に入ること自体は些
細なことかも知れませ
んが、海で楽しめたら、今
度は山にも行ってみた
くなりませんか。一つの
チャレンジが次のチャレ
ンジを生み、そこで付いた
自信はその人の自己肯定
感となつて、もう一つ大
きなチャレンジへとつな
がっていきます。そんな
場面を垣間見れたこと
が、9年間活動してきて
一番良かったことです。
立ち上げ当初は、まさか
こんなにボランティアが
集まってくれるとは思っ
ていなかったし、参加者
も増え続けていて、毎年
4月ごろに決まって申し
込んでくる「固定客」
もいるようです。

参加を通じて本人が変

わたたのを見て、親御さ
んが泣いて喜んだとい
うこともあったし、最初
は参加者だったのが、途
中から運営側に関わっ
てくれるようになった人
もいます。また、この活
動のボランティアを体験
したところ、そもそも多
様性を認め合うコミュニ
ティなので受け入れても
らえて、自分の居場所を
見つける結果になった方
もいます。その人は学校
生活もなかなか難しい
感じだったので、自分
分の役割を見付けて、学
校に行けるようになった
ということです。

「最初は躊躇したり
勇気が必要でも、ここに
来たら、受け入れてくれ
る人や、挑戦を一緒に
してくれる人がいるか
ら、一度来てみてくださ
い」と土原さんは伝えて
いました。

そして全国の海への チャレンジです

全国各自治体や地元企
業から、「ぜひうちの

地域でも」という要望や
「講習会をしてほし
い」という依頼がよく来
るようになり、これまで
31都道府県56か所で、
イベントを開催したそう
です。その結果、現在ま
でにきょうだいプロジェ
クトが全国に二十箇所
誕生し、各地で一緒に
協力してユニバーサル
ビーチをする人がいると
ころまでできました。そ
の上で、今後も全国の色
々なビーチを、いかに持
続可能なしていくかとい
うのが、課題です。この
活動をしていると、神戸
の土地柄を感じることが
あるようで、やはり神戸
の歴史にも、日本の
開国以降最初に開港
した五都市の一つで
あり、外国人居留
地があったり華僑
の人も住むなど、多
様な人や文化を受け
入れやすい土壌
が、できていたと思
います。さらに阪神
大震災によって、地
域で何か活動をす
れば、企業や行政が



応援してくれる、ボラン
ティアの土壌というの
が育まれた印象です。
それが、全国どこでも同
じという訳ではありません
が、47都道府県に兄
弟プロジェクト設立を目
指して頑張っています。
今、奈良や岡山からも、
2〜3時間かけて須磨
で来る人もいますので、
っと近場で体験できる拠
点があればという思いが
あります。

夢は、神戸の街をア ドベンチャーワールド ドにしていきたい！

今の夢は、神戸の街を
障害者・高齢者・子ど
も、みんなが楽しめる、



りの暖かい街、神戸
ですね。
今の私は海水浴な
んて冗談でしかなか
ったのですが、何故
か須磨に海水浴に行
きます!!日本製はま
だ無いみたいなので
すが、今度水陸両用
車いすに乗るのが楽
しみです。車いすで
浮かびながら、何を
思うのでしょうか。

取材で協力ありがと
うございました。

※ボランティアが集まり
やすいという理由から、
水陸両用車いすやビー
チマットを利用される方
については、営業日
土曜・日曜・祝日のみ
となります。ご理解・ご
注意をお願いします。

(担当・塚原)

須磨ユニバーサルビー
チプロジェクト

問合せ：080-3782

14405

Eメール：sumuniversal

beach@gmail.com

2024年度市民講座報告

2025年3月16日(日)、豊中市中央公民館にて、当法人主催の市民講座を開催しました。テーマは「精神障害です」。「8050問題(80歳代になった親が、50歳代になった精神当事者の我が子を介護する)」というのがありますが、この背景には精神障害に対する世間のネガティブなイメージや無理解があります。そんな実情を受け、当事者と支援者の生の声を聴く機会を企画しました。講師は大阪精神障害者連絡会(ぼちぼちクラブ)の山本深雪さんと、社会福祉法人北斗会さわ病院の中島憲行さんに務めて頂きました。

山本さんによる講演「当事者の視点から」

現在72歳の山本さんは、18歳頃から精神的な困難を感じ始めました。元々漠然と、日本社会のいわゆる「右へ倣え」



みたくないやり方には馴染めないと感じていました。23歳の時、踏切での列車事故により入院しましたが、その療養生活の中で「のんびりする時間の流れ」を体感できた一方、措置入院扱いだったため、怪我が治ってくると

即退院するよう、主治医から勧められました。その後は大阪で、3軒長屋での共同生活をしていましたが、ある日町内会から「火の後始末の不安」を理由に突然退去を求められました。「ガスの元栓確認は必ずしている」と反論しましたが聞き入れられず、「何故急に?」と疑問を投げたところ、「最近不審火があったから」。発生時刻からしても、自分たちが犯人というのには有り得ないと訴えましたが、「もう自治会で決定したことだ」の一点張りだったといひます。仕方なく引っ越しをした後は、「足が宙に浮いたような気分」でした。生活のため仕事を探しますが、差別も経験した当事者として、「自分を守ってくれるものは法律だ」という思いがあり、法律事務所の事務員の仕事に就きました。やがて電話相談の仕事も経験しますが、それが切っ掛けで、のちに大和川病院事件に関わっていくことになるのです。大和川病院事件とは93年に入院患者が何人か亡くなり、その身体から明らかに虐待の痕が見られたと究明に近づくべく、退院した元患者からの聴き取りも行い、やがてはマスコミにも知

られるところとなって、元患者の遺族による提訴にまで発展しました。このような、継続的な取り組みの結果として、障害者差別解消法などの法律も整備されていったと、山本さんは感じています。

中島さんによる講演「支援者の立場から」



中島さんは45歳、さわ病院で20年近く勤務しています。元々は全く畑違いで、システムエンジニアだったそうです。その後偶然、「精神保健福祉士に転職した人の話」を聞き、自分も資格を取ってみようと思ったところから、現在の中島さんがスタートしました。支援すること、を「アートかデザインか?」で表現し、「アートは自分が創ったものを人に認め

てもらいたいものだが、デザインは相手のニーズを聴いて、それに沿ったものを創っていくこと。支援はデザイナーでありたい」と語りました。精神障害者への偏見が生まれる背景について中島さんは、メディアの影響、正しい知識の不足、過去に当事者と絡んだ中での否定的な経験などを挙げました。偏見を無くすためには、交流を深める、しっかり

した(ゴシップではない)情報を掴むなどが大事だと述べました。精神科医療については、「閉鎖的で怖い場所」という偏見に対し、面会や外出は基本的に可能で、退院支援は病院の責任で行われている普通の医療であると伝えていました。家族への支援に対しては「家族は支援者ではなく飽くまで家族」、「家族自身も自分の人生の主役」と提言していました。当事者本人に対し、飽くまでも本人が自分で決めて行動しているようにする自立支援を、最も基本にして支援をしているということでした。

パネルディスカッション

山本さんからは大阪府の入院者訪問支援事業の予算制約による課題を、中島さんからは病院スタッフが地域に向いてケアを提供する理想的な体制について発言がありました。山本さんは「当事者の声に耳を傾け、具体的な配慮を積み重ねること、状況は改善できる」と。中島さんは「メンタルヘルスの課題は社会で発生するものだから、社会で考え、解決するのが当然」。

講師のお二人、参加者の皆さん、有難うございました。(担当:大岩)

2024年度ILP講座報告

2025年2月22日(土)、当センター主催の自立生活プログラム講座を開催しました。今年度は一日完結型で、テーマは「自立だヨ!全員集合」。4名の受講生が参加し、自立生活について楽しく学びました。

他己紹介

講座は「他己紹介」から始まり、受講生が、まずはペアになって自己紹介を行い、その後全体に対して他己(相手)を紹介する形式です。これで緊張を和らげつつ交流を深め、「自由に恋愛したい」「自分で稼いで生活したい」など、自立の理由や夢を語り合っ共感を得ていました。



座学(人権、制度について)座学では、障害福祉制を「自分の生活を形づくる権利」として学びました。介護サービスや就労支援についての解説があり、参加者は制度を選んで使う意識を持ち始めていました。

デートプランゲーム

午後は参加型ゲームを通じて、他者との関係づくりを学びました。「デートプランゲーム」では、条件に応じた理想のデートプランを考え、互いのプランの良い点を称え合いました。

もしものとき対応ゲーム

「もしものとき対応ゲーム」では、生活上のリスク対応を話し合いました。多様な意見が交わされ、異なる考え方を尊重する空気が生まれました。

振り返りとまとめ

最後の振り返りでは、「具体的な方法がわかって参考になった」「楽しかった」との感想が多く、参加者は笑顔で満ちていました。今回の講座は、知識と実践をバランスよく学べる場として成功しました。今後も楽しみながら自立生活を考える機会を提供していきたいです。(担当:大岩)

バレンタインチョコを作 ってみよう!! イベント

クッキングに挑戦したいとい
う利用者のリクエストにお
応えして、2月8日(土)にプ
チILP講座として、20代
から30代の利用者3名とス
タッフ2名で、手作りチョコ
レートにチャレンジしまし
た。

当日、自己
紹介の後、早
速市販の板
チョコを細
く刻んでい
く作業を一
人ずつ挑
戦。「家では
包丁使用は
禁止されて
いるのでド
キドキする
」と言っ
た参加者も
刻み終わる
頃には「や
った!!」と
良かった!!
と良い顔に
なりました
。刻みまし
た。



準備を進め
ました。簡
単レシピを
考え、手順
書を作った
り、備品を
揃えたり
。



のでドキ
ドキする
」と言っ
た参加者
も刻み終
わる頃に
は「やった
!!」と良
い顔にな
りました
。刻みまし
た。



ていきます
。これが結
構根気の
いる作業
で、ゆっ
くりした
手の動き
で優しく
混ぜてい
きます。3
名が交代
しながら
「いい匂
い」とう
っとり。

溶かした
チョコを
可愛い容
器に流し
込み、固
まる前に
トッピング
材やチョコ
ペンで飾
って、

●アルミ
カップチ
ョコレ
●チョコ
グラノー
ラの3種
類の、世
界に一つ
だけのオ
リジナル
チョコを
作るこ
とが出来
ました。ご
自身で用
意され
た「いつ
もありが
と」のメ
ッセージ
シール付
きの袋に
入れた
チョコを
当センター
職員に
お渡し
するこ
とをす
ることに
なりました
。当日初
めて会
ったメン
バーな
るに、お
互いの苦
手な所
は補い合
って楽し
く完成さ
せること
が出来ま
した。一
緒に取り
組むこと
で会話も
弾み、す
っかり仲
良くなっ
て、冷蔵
庫で冷や
し固めて
いる間の
振り返り
では「次
回はホ
ットプレ
ートを使
って何か
作ろうよ
」など、
アイデア
が沢山出
ていまし
た。

不定期で
もリクス
トにお応
えしてい
きたいと
思ってい
ます。乞
うご期待
!!

担当: 片山

利用者の
気持ちの
伴走者
として

利用者の気持ちの伴走者として

空(くう)

豊中市庄内西町3-19-18

06-6335-1493

阪急庄内駅南側、踏切の前
から延びている商店街を数
歩くと、左手にレンガ色の
建物が見えてきます。そこ
は「就労継続B型 空(くう)」。前号に
続いて、商店街の中に在る
事業所を訪ねてきました。対
して下さったのは、管理者
の荻野真紀子さんです。

「ここは何を
している
事業所
なのですか
?」
空(くう)と
して、ここ
が「空(く
う)」とい
う事業所
で、こう
いう内容
の仕事
をしている
。これを
出来る人
や興味
のある人
募集」と
いう話に
なるか
と思いま
す。しか
し空(く
う)の場
合は、最
初は何も
決まっ
ていない
、言わば
無色透明
のキャン
パスとい
う状態で
、そこに
各利用
者が、自
分の好き
なこ
とや特技
とい
った「色
」を付
けていく
こと
で、それ
がそ
の人の
仕事と
なるの
です。

わくワークミット!!



空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。



空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。



空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

出勤で始
めたところ
、いつの間
にか朝から
来るよう
になった人
がいるこ
とです。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

空(くう)は
2023年
2月に開
所して、
現在3年
目です。
最近、近
くに2箇
所目も開
所したと
いうこと
で、2箇
所合わせ
て40名
の、精神
または療
育の手帳
を持つ当
事者が利
用してい
ます。最
年少は21
歳、最年
長は74歳
というこ
とです。「
利用者自
身が自分
のやりたい
ことを見
つけたい
」とい
うスタイル
なので、
過ぎ方
はまさに
「四十
色」。具
体的には
、絵を
描いてい
る人が何
人かいま
す。内1
人は絵本
を出版し
、出版記
念パ
ーティー
もやった
そうです
。図柄を
描く人も
居て、大
島袖の反
物にして
着物を
作ったり
、Tシャ
ツや帽子
にも描い
た絵をプ
リントし
ています
。ペーパ
ークラフ
トやビーズ
で物を作
ったり、
レジ(樹
脂)でペ
ンダント
を作る人
もいて、
これらの
作品を販
売して、
工賃に
還元する
ようにし
ています
。因みに
この日は
豊中駅北
改札前
にある、
福祉の店
「ななか
ま」の日
で、取材
の後、「な
なかま」
にも立ち
寄りまし
たが、パ
ズル画・
ポーチ(い
ずれも7
00円)や
、ミニカ
バン(50
0円)、
ピアス・
イヤリン
グ・ドリン
クカバー
(いずれ
も300
円)、そ
れにコー
スター(2
00円)や
ストラッ
プ(100
円)など
が販売さ
れていま
した。

豊中地域情報 ぼびゅ〜ん!!

日本リンクオート

豊中市桜の町、細いバス通りに面して、一見小さなガソリンスタンドという場所があります。しかしそこはガソリンスタンドであると同時に、全国でも数少ない、福祉車両専門の整備・販売店なのです。今回ご紹介するのは「日本リンクオート」で、代表の谷本篤俊さんにお話を伺いました。

ある間違いが切っ掛け

日本リンクオートは、元々は普通の車屋として、1996年に開業しました。福祉車両専門店に転向したのは2014年ですが、その切っ掛けは実はある間違いでした。ある時、通常通りに中古車を購入したところ、内1台がボタン操作で座席が外まで出てくる福祉車両だったのです。「これ、どうしよう？」と最初は思ったのですが、もう一つ、決定的な偶然がありました。この時期、谷本さんの父親が病気で身体に障害が残り、車の乗降が大変な状態になっていたのです。それならばと、福祉車両に父親を乗せてみたところ、



「これは乗りやすい！」と、介護をしていた母親共々、大喜びでした。この出来事を機に、福祉車両専門の道を歩むことに決めました。

改造は出来るけど...

日本リンクオートは福祉車両が専門ですが、一般車



両の車検や整備・点検も、依頼があれば引き受けています。福祉車両への改造工事では、ドライバーの身体に合わせて、ウインカーレバーやアクセル・ブレーキの位置を変えたり、屋根上のために、車いすを折り畳んで積むための台を作る、などをやったりということになります。ちなみに車いすは、リモコン操作によって屋根上に積みます。ただ、既存の車に後付けで工事(改造)をするのは、最初から取り付けられていた新車を買うよりも、費用が数倍掛かるそうです。例えば、回転昇降シートを後付けで取り付けると約200万円掛かるのですが、最初から取り付けられている新車を買ったと、原価+約50万円です。

代車があるのが強み!

日本リンクオートの大きな強みとして、点検・修理期間中の代車を用意出来るというのがあります。自動スロープ付きなどの福祉車両は、通常の車両よりも点検・整備に時間がかかります。点検



言葉は掛けるに当たっては、気

配りが必要とのことでした。そして、「日本は高齢化社会ですが、将来同じ道を辿る国はあるだろうから、介護や福祉でこうすればいいという見本に、日本がなってもいい」。車と社会は切っても切れない縁。車から良いヒントが生まれるかも知れませんね。(担当:根筋)

所在地:豊中市桜の町3-1-8
電話:06-4865-2727
営業:8時~20時(土曜は19時)
定休日:日曜・祝日

小説【雅人の一日⑤】

辛夷ひらくT字路に

上半身を右に傾けて電動車いすで歩いていると、三丁目のT字路で多くの人はしらすしらずに緩み、目尻が下がっていたにちがいがなかった。今日にかぎっては黄砂もPM2.5も漂ってはいない、すこしもの憂げな夕暮れのはずだった。

このT字路はぼくにとって、特別な意味をもっている。気乗りしなかった会議の帰りに、どこか無理をして笑顔をつくってしまった立ち話のあとに、小さな公園を曲がると、燦っていた煩わしさも、人波にまかせながら拾い上げたきこえない充足感も、

わが家までの数分づくほほ 誰とも会うことのないだろう 住宅街で、無意識のうちに鎮 まっていく。

「まささんとさん、お元気ですかあ?」
「元気いっぱいです!こどもさんも、大きいならはったでしょ?」

つばひろの麦わら帽を斜めにかむった初老の婦人が、彼女にとつての全速力で、前傾姿勢のままママチャリで風を切っていた。

聴き覚えのある声ではなかったし、老いはじめた動体視力では追いきれない速さだった。まったく、記憶から抜け落ちていた。それにしても、とっさに口を突いた出まかせのデキの良さは、なかなかのものだった。

『知ったかぶりは一番アカン!バレたら、信頼関係なくしてまうでえ!』けさも鼻息荒く、大学を出たばかりの新採さんに説教を打っていた。

おなじ口で知ったかぶっている自分がある。まんざらでもなく思う自分がある。

ふいに、やりきれなさがある。み上げてきて思わず視線を泳がせると、古ぼけた時計台のそばのコブシが思い思いに白い花弁を開いていた。

(北のグリエゴ)

IL活動を訪ねて三十里 「スクラム編」

大阪市大正区三軒家東、大正駅から程近い所にある「自立生活センタースクラム」を訪ねました。対応してくれたのは、事務局員・ピアカウンセラーの酒井建志さん、通称けんぼーです。では、まずはけんぼーさんの略歴から。

けんぼーさんは現在35歳、スクラムの職員になって13年になります。スクラムとの出会いは、実家に住んでいた時代、家族による介護からヘルパーサービスを使う生活に切り替えようと思い、制度の取り方等について地元の相談センターを訪ねた際、スクラムを紹介されたことがきっかけでした。そして姜博久さんと出会い、ピアカン講座の受講を勧められたのです。

○まず「抑圧」に気付いた

ピアカン講座を通じてけんぼーさんは、自分の中の「抑圧」に気付きました。それまで健常者の中で生活をしてきたというけんぼーさん。小学校からずっと地域の学校に通い、自分が障害者だというイメージを持つことはありませんでした。大学を出ると就職活動をし、何社も受けるが内定には至らず。その原因が自身の障害である



るということを、当時は受け止めていなかったといいます。ピアカン講座を通じてけんぼーさんは、「自分には障害がある」と自覚できるようになりました。「この社会が生きにくい」と実感できるようになりました。そしてピアカンや障害について一生懸命勉強し、当事者の自宅も見学したので、こうすれば生活出来るんだ。自分も早くしたい!という思いに駆られ、文字通り勢いで自立生活に踏み切りました。で、いざ始めてみたら「お金ないなあ」。姜博久さんに相談すると、「ウチで働かへん?」

○担当を分けている

現在のスクラムは基幹も併設しており、曰く「ピアカン・ILPの担当と計画相談の担当は、分けてやっている」。ただ、ケースによってけんぼーさんも他の当事者職員(合計6人いる)も、ピアカン担当にもなるし、相談業務担当にもなるということなんです。そのため両方に対応出来る必要がありますが、基幹の仕事は書類がメインなので、障害者にとっては負担も大きいとのこと。就業時間等

に關しても、行政からの縛りがあるのですが、当事者だからこそ出来るIL活動の仕事も、大切にしていきたいと考えています。

○ピア・スクールやりました

昨年11月〜今年3月まで、全8回でピア・スクールを行いました。ILP講座の大きい版というところで、テーマは「ピアに於けるリーダーシップを学ぶ」だったので、これから自立したい人も受講可でした。さまざまな年齢・障害・性別の人が13名参加してくれました。スクラムは常に、大阪市内の他事業所と文字通りスクラムを組んで、「新しく自立したい人がいる」「若手の当事者が入ってきた」などの情報交換をしています。自分の団体だけで抱えず、近隣他事業所に呼び掛け、巻き込んで、合同でやるというこのスタイルこそ、スクラムの最大の強みなのではないかと感じました。「自分たちだけでは限界があるので、他団体との繋がりがなくて仲間を増やしていくことが必要で、それを一番大事にしている」。この言葉を聴いて、CIL豊中も襟を正すべきかも?と感じました。



在職14年目、今年で36歳

になるというけんぼーさんは、「自分(の世代)が、IL活動の重要さを伝える上で、世代間の橋渡し役になる」と感じています。初めて先輩から、青い芝の会についてなど障害者運動の話も聞いたときは、「恐い!」と感じました。しかしスクラムで一緒に活動するのを通じて、「障害者が声を上げて何も響かなかった時代の運動があるからこそ、今の自分の生活がある」と実感するよう

になりました。その経験から、「取り敢えず一緒に活動しよう!」と、若手には働き掛けをしています。運動の重要性を若手が実感するに伴って理解しているのか、疑問に感じることもあるそうです。なにもわからず運動に参加したところから、その意味の重要性がわかり始めて、主体的に運動できるようになった変化の経験をしたという意味で、けんぼーさんは過渡期の世代と言えます。

○朝礼でニュー&グッツ

スクラムでは毎日朝礼を行い、必ず一人一回は発言をするそうです。その内容は「最近のニュー&グッツ」。

とやいいことは必ず隠れていて、それに気づくことが大事。今年9月にピアスクール第二弾を行うそうで、5月中にチラシも完成するの、是非参加して下さいという事です。また、ヘルパーの担い手を確保すべく、大学とのパイプも築くようにしています。(担当:根箭)

連載

「極秘」プロジェクト

私の苦手な座学の時間が50分間あり、ここでは運転者の心得や交通ルールなどを勉強しました。座学と実践講習は、自分で時間割を見ながら次に講習を受ける日を申し込んで帰ったと思います。

それから学科と実技講習がスムーズに進み、仮免前学科効果測定を受けることになりました。この仮免前学科効果測定は、学科と実技の空き時間にパソコンでテストをしました。その一回目のテストは残念ながら不合格でした。そして、間違ったところを考えていたら所長さんが来て下さり、

丁寧な教えてくれました。その後、テストをすると合格できました。次には技能試験があり、教習所内の車の運転のテストでした。その試験コースは教官が助手席に乗ってきたときに、「このコースで行って下さい。但し、道順(曲がる場所)が分からない場合は教えます。」と言われ、試験がスタートしました。その後、試験終了後にその教官から合格と言われ、これで仮免許を取れました。これで仮免許取得したことになります。次は技能講習は一般道を走行することになります。

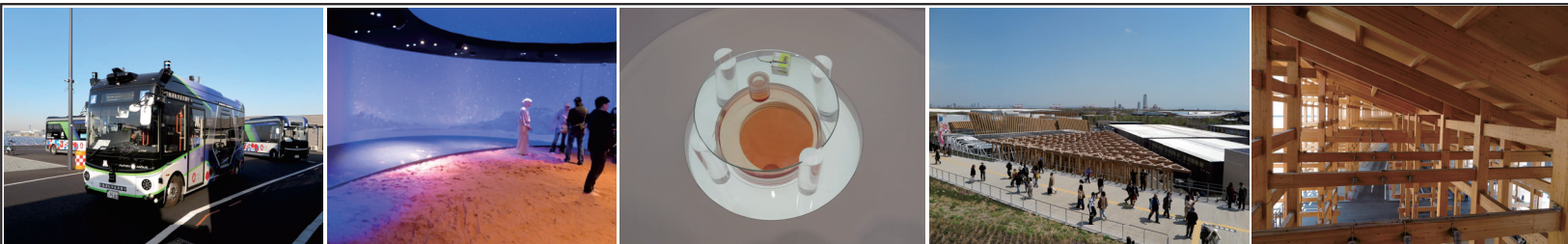
【教官との談笑】

無事に仮免が取れました。1と報告した後に、「今度の一般道の講習の時に私の車に乗って下さいね」と言っていると、教官が「防護服を準備するわ(笑)」と言われ、

(瀧本香織)



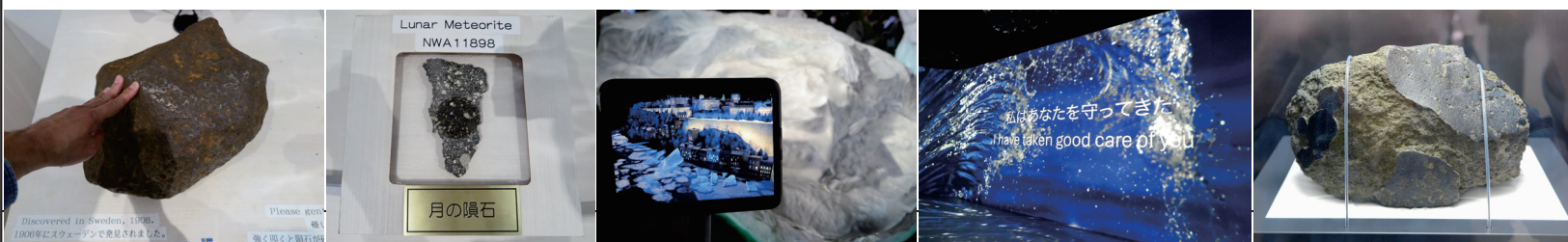
二〇〇〇年十二月十二日第三種郵便物承認 毎月(一、二、三、四、五、六、七、八の日)発行



会場内周遊バス、ヨルダン館「赤砂体験」、大阪ヘルスケア館「心筋シート」、大屋根リング上段通路、大屋根リング支柱



日本館「ごみは、いのちのはじまりだ」・「CO₂でなに作ろう?」、ガンダム、パソナ館「立体映像によるネイチャーバスショー」・「iPS心筋シート」



フューチャーライフヴィレッジ「重さ80.5kgの隕石に触れる」・「月の隕石」、カナダ館「タブレットでバーチャルカナダ旅行」、ポルトガル館「海の視点」、日本館「火星の石」

楽しみ多き万博だが、課題もある。夢洲駅のエレベーターが少ないため、特にベビーカーの行列が絶えない。地上では直前地点でエレベーターに乗る人を振り分けるため、通路がごった返す。車いす送迎の運転手が、「事前講習を受けないと会場前駐車場に入れない」と、現地で急に言われたという話も聞いた。利用者を降車させるための講習が何故敢えて必要なのか? そういふ点が改善されれば、バリアフリーな万博が実現する。



夢洲駅地上エレベーター前・改札階ホーム行きエレベーター前、アメリカ館「月の石」、電力館「可能性のタマゴたち」

哲珍の部屋

上田哲郎

9月から12月までイタリアに海外逃亡をしようとしている上田です。行程としては3ヶ月間イタリアの3都市で1月ずつ過ごし、地域の風土や人を感じ、精神保健施策と共生教育を観に行こうと思っています。

いずれ結婚するであろう「結婚資金」数百万円の切り崩しも良いかと、結婚は50歳超えたらまた考えればと、イタリア逃亡に注ぎ込んでいく意義は十二分にあると判断しました。

なぜ逃亡を考えたのか言え

ば、理由は大きく二つあります。一つは豊中に2校目の支援学校の設置計画がある事を知った

からです。それにより一層障害者の社会からの分離分断が進む

のではないかととても危険に

惧しているのと、1970年代から共生教育が進み始め、草の

根運動的に障害児が地域の小学校の普通学級で学ぶ環境

は少なからず確立されてきたものを、いとも簡単に支援学校の

教室が足りないから作る、上から言われたから渡すという考え

への寂しさや怒りからです。要因として豊中支援学校が定員超過

しているからそれを補おうという府教委の思惑と、市内の小

中学校を統廃合し、使わなくなった中学校の跡地の活用方

法に困っていた市の思惑が一致したのでないかと思われ

ます。二つ目は2022年に日本府が障害者施策に対して国連

ら受けた勧告に、分離教育の中止と精神科への強制入院を可能にしている法律の廃止を強く求められました。厚労省は少なからず動きは見せているものの、文科省は政府が障害者権利条約に批准しているにも関わらず国連勧告に対して遺憾と公言している始末です。この

二つの強い勧告を豊中の現状に置き換えると、分離教育の中止に

関しては少なからず一緒に過ごせる空間をどの学校でも提供

出来ていますが、精神科への強制入院を可能にしている法律の

廃止に関しては、未だに450病床を構えている精神科病院

が2箇所ある状況があります。イタリアでは1970年代に

障害児学校と精神科病院入院病

床を9割9分無くし、障害児は普通学校に通い、精神障害者

は支援体制が強化され地域で過ごすようになり、今ではその環

境が当たり前なのだそうです。豊中で育った当事者として

は、地域の学校を拡充すれば支援学校はいらないと感じます

し、分けられて育てば理解も広がらなくお互い忘れられます

し、忘れられたら孤独で淋しいと感じます。隣の芝生は青いで

はありませんが、日本からみてイタリアは障害児学校も精神科

病院の入院病床もほぼ閉鎖され、羨ましく思われているけれど、本当のところはどうなのか、その地の実際を知るために3ヶ月間滞在しようと思います。

追悼・山口博之さん

去る2025年4月14日、当法人の前副理事長で、自立支援センターの精神障害ピアカウンセラーである山口博之さんが、病氣のため他界されました。74歳でした。

山口さんは、精神障害当事者として、関係多方面に亘って活動され、多くのメッセージを発信してきました。当センターに於いても、色々な相談者やその周囲の人との接し方を模索する上で、重要な助言を与えてくれたと思っています。福祉職の人は、「福祉である」ということを意識するあまり、どうしても、「相手に冷たい」と思われてはいけな

い、「相手にとって絶対親切でなければならぬ」と気を遣うと思います。特に新しい人は、「冷たいと思われる」「失格」と捉えがちですが、そんな時、「相手が間違っている時は間違っている」と言

って良い、断るべき時は断れる」と指針を与えてくれたのが、山口さんでした。言葉の厳しさの裏には、心

のやさしさもありました。感謝すると共に、心よりご冥福をお祈りします。



(事務局)